2月28日、本日は不動明王様の祥月命日ということで、勸請をさせていただきます。

まず、ドバイの報告をいたします。お陰さまでありがたいご順序を頂き、11月のフォーラムに対して大きな前進がありました。大きな因縁も頂きました。私がドバイの空港に着いた時、大変な雨でした。10年に一度の大雨だそうで、道路が川になっていました。その時思ったのは、実際に現地へ行き、砂漠という地域で大雨のご順序を体験し、因縁を知ることができたのは本当にありがたいということです。ただ、私はフォーラムができなくなるかもしれないと申し上げていますが、それは今も変わりません。このような大雨がフォーラムの時に降れば、できなくなってしまいます。今後とも、物心両面にわたり、ぜひご支援ご協力をお願いしたいと強く願っています。

では、本題に入ります。私たちはなぜ人間に生まれてきたのかということをお話します。会主さまから「懺悔をするため、前の世での悪い行いを少しでも返すために、人間として生まれてきたのだ」とご指導頂きました。本当に厳しいご指導です。人間として生まれてきたということは、前の世で悪いことをしたと確定されているわけです。会主さま、大導師さまは「私は前の世で大変なことをしてきたから、妙智の教えを広めるために修行するんだ」とおっしゃっていました。お2人はそういうお心、行いを残されました。ですから私たちはその事実を受け止めなければなりません。

前の世、この世、次の世は全て平等であり、前の世のことはこの

世に、この世のことは必ず次の世に出ます。例えば、前の世で悪いことをしたら、この世で必ず報いが来るということです。ただ、目に見えないことはなかなか理解しがたいので、会主さまは先祖供養というものを残され、目に見えないものを目に見えるようにしてくださいました。先祖のしたことは私たちに、私たちがしたことは子ども・孫に出る。これは目に見えます。もし例えそれが見えなくても、持っているのです。タイミングがなくて表に出ないことがあるだけで、先祖のことは今の皆さんが平等に受け継いでいます。これが因縁です。懺悔をして、少しでも行いを良くし、目に見える子ども・孫たちに良いものを与えなさい、というのが会主さまのご指導です。それが本当の私たちの生き様です。厳しいようですが、まずはそこを、受け止めなければいけない。

そして、今私はご神佛に対して、「ありがとうございます」と言っています。私たちの願いのほとんどは欲からくるものですから他のことは言わず、ただ感謝をしています。何があってもです。それで十分であって、ご神佛に申し上げる全てを物語っているのだと思います。会主さまが「ありがとうございますと言えればいいのです」とおっしゃった意味わかりました。世界平和を願うことはもちろん大切ですが、その時に人間の持っているかっこつける部分があってはならないような気がしています。よければ皆さんも、今日の夜のお経の時から「ありがとうございます」だけでやっごらんください。本当に気持ちが変わってきますよ。

また、昨日は、新宗連で祈りのテーマで話し合いがありました。そのときに私が言ったのは、「祈り」と、「儀礼」についてです。儀礼というのは、例えば、おたすきをし、お数珠をもって、お題目を

3回唱え、頭を下げることです。私は、形ばかり気を止めすぎて、大切なものを失ってしまう危険もあると話しました。私たちは、儀礼を重んじすぎて、大切な祈る心を忘れていないかと思うときがあります。だから私はよく、おたすき・お数珠をしていないときが大切だと言います。

私が3.11のボランティアに行ったとき、地元の方たちが、荒れ果てたところに向かい、涙を流しながら、亡くなった方を思って、合掌している姿を今でも忘れられないです。心が震えました。その祈りは尊いです。今回の能登半島でも先ほど言ったような映像を見たときに、私は涙を流しました。

今日私が申し上げたかったのは、妙智会員は心でやらなければいけない。例えば、今はこうして、椅子に座ってお経を上げ、話を聞いています。昔の本殿は畳でした。昔は全て座りでした。ですが、お年を召して椅子が必要になる方もいるので、徐々に椅子が増えて、今はほぼ椅子に変わりました。儀礼・儀式も変化しているわけです。昔は座礼、今はほとんどが椅子での礼儀です。でも、心は一つも変わっておりません。

おたすきとお数珠も、お経以外のときは取って良いですと、霊界から頂いたからお伝えしました。これも本日の話の延長線です。取っていても変わらない皆さんで居てもらいたいです。前はこうだった、というのは儀式・儀礼の部分です。心の部分では、前がどうだったということではありません。変わっていないのです。

皆さん、ぜひ、心を作りましょう。もちろん形と心、どちらが先とは言いませんが、やはり心を作っていないといけません。

とても大切な話なので、皆さんの心に残してください。そして、ぜひそれを周りの方にも、伝えていただければ幸いです。